

# With/After コロナ時代におけるケアの課題と 新たな取り組み

日時：令和3年5月23日（日）13:30-16:00

開催：オンライン（Zoom）とオンデマンド（YouTube）

※ 詳細は申し込み後に連絡します

## プログラム

13:30 挨拶

13:40 **ケアサイエンス**の意義と展望

小松浩子（日本学術会議第二部会員、日本赤十字九州国際看護大学・教授）

14:00 **コロナ禍**における高齢者のフレイル予防を考える

荒井秀典（日本学術会議第二部会員、  
国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長）

14:30 コロナ禍のメンタルヘルス：**何が失われたか・どう支援するか**

菅間真美（日本学術会議連携会員、聖路加国際大学大学院看護学研究科教授）

15:00 地域共生社会の構築にむけた多様なケアの提供とその担い手：

**多文化地域共生**の視点から

和氣純子（日本学術会議第一部会員、東京都立大学大学院人文科学研究科教授）

15:40 総合討論

（司会）西村ユミ（日本学術会議第二部会員、東京都立大学教授）

16:00 閉会

申し込みフォームはこちら



主催：日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会  
臨床医学委員会老化分科会、健康・生活科学委員会看護学分科会、社会学委員会社会福祉学分科会

後援：日本老年学会、日本老年医学会、国立長寿医療研究センター、日本看護系学会協議会、日本社会福祉系学会連合、  
日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本老年看護学会

# 開催趣旨

少子高齢人口減少社会が急速に進む日本では、これまでの制度や単一の学問の力では解決困難な複雑な問題が急増しています。また、地域においては、相互に支え合う機能が脆弱化し、新たな問題に対して地域の力を発揮することにも限界があります。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが追い打ちをかけ、医療崩壊や介護崩壊など、様々な機能の崩壊が現実の課題として突き付けられています。こうした状況においては、互いに支え合う〈ケア〉が重要な意味をもつと思われま

私たちが提案する「ケアサイエンス」とは、ケアに関わる複雑な問題の根拠を解明するだけでなく、多学問分野および問題に関係する市民、行政、企業等と連携・協働して、**〈新しいケア〉**のあり方を模索し、共に作り上げていくことを意味します。この取り組みによって、「相互支援＝ケア」を基盤にもつ「地域共生社会」を構築し、持続可能な地域社会と健康で豊かな生活の実現をめざします。

本シンポジウムは、コロナ禍において脆弱で喫緊の対策が必要な領域の、ケアに関わる先駆的な多分野共同研究および課題への具体的な取り組みをシリーズで紹介し、ケアサイエンスという新しい学問的見地から、直面している問題の核心を探り、関連する学問分野がより効果的に連携・協働できる提案や見解を見出すことを目的としています。

シリーズ企画の第1弾として、今回、

- ①コロナ禍においてフレイルのリスクが高い高齢者の生活不活発を予防し、**介護崩壊**を安全に回避することの提案
  - ②コロナ禍におけるハイリスク群とされる支援者へのリモートメンタルヘルス支援により、社会が**相互支援する共同体**として顕在的・潜在的な力をもつ提案
  - ③外国人介護士を含めた多様な人材がケアの担い手として地域社会に統合される、**多文化地域共生社会**の構築を目指す提案
- を企画しました。

多くの参加者の皆様と課題を共有し、より現実的な提案となるよう議論したいと思います。